

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301336		
法人名	医療法人すみれ会		
事業所名	グループホーム舟見町		
所在地	青森県八戸市江陽5丁目7-24		
自己評価作成日	平成31年1月8日	評価結果市町村受理日	平成31年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者や家族が希望された時には医療と連携を図りながら、看取りをさせていただいている。医療、専門職とはICTで連携を図っており、チームとして入居者を支援しやすい環境となっている。また、最期まで安全に口から食べていただけるように、歯科医や管理栄養士の指導を受けながら、摂食嚥下にも取り組んでいる。</p> <p>月1回、ホーム内でオレンジカフェを開催しており、地域の方に認知症の理解を深めていただくと共に、どのようなケアを行っているか知っていただき、地域に開かれた事業所となっている。看取りをさせていただいた家族にも、継続してホームの運営に関わっていただき、家族の協力体制が大きな力となっている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の情報(バイタル、排泄、水分摂取量、水分摂取種類、感情等)をタブレット端末に入力し、関係機関で共有可能な体制を整備しており、家族の安心にも繋がっている。また、災害発生時等に備え、利用者の服薬状況や避難時に必要な情報を記した全ての利用者の避難袋を用意している。</p> <p>ホームでは日頃の取り組みや認知症の理解等を図ることを目的に、毎月、認知症カフェを開催しているほか、地域の防災訓練にも参加して、地域との連携を深めている。</p> <p>また、利用者が最期まで口から食べられるように、嚥下指導や口腔体操を取り入れており、個々の嗜好を尊重しながら、誰もが望む食の喜びを大切にしている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成31年2月5日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、理念に沿ったケアを心がけている。	理念はホーム内に掲示する等して共有化を図っており、職員は地域密着型サービスの役割を理解しながら、日々、理念を意識したサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オレンジカフェ開催日には一緒に参加し、地域の方と交流を図ることができている。	ホームの取り組みや認知症の理解等を図ることを目的に、毎月、認知症カフェを開催しており、地域住民へ広く参加を募っている。また、保育園児や中学生との交流のほか、民生委員の訪問等もあり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第2水曜日にオレンジカフェを開催し、地域の方に自由に参加していただき、相談等には日頃のケアや研修での知識、支援の方法を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回、入居者の状況や行事を報告し、委員の方の意見を次に繋げている。	運営推進会議は隔月で開催しており、委員は市担当課職員や地区町内会長、自主防災会、家族等で構成している。会議では行事や防災訓練、利用者の状況等の報告を行っており、出された意見は全職員で共有し、利用者へのより良い支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例があった時には相談し、アドバイスをいただいている。	運営推進会議には市担当課職員の参加も得ており、ホームの運営に関する助言や情報等をいただいている。市とは相談体制を整備しており、連携しながらホームの運営やサービス提供に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人にも身体拘束検討委員会を設置して、話し合いの場を持ち、職員にも周知している。	マニュアルを整備し、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、利用者の生命に関わる場合等、やむを得ず行う場合の体制も構築している。また、法人内に身体拘束検討委員会を設置しており、事例検討を行い、職員間で共有しながら理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待予防のためのセルフチェックを行い、必要時には個別で指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で理解を深め、活用し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安が解消されるように、丁寧な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、要望等は面会時に確認してケアに反映させている。	玄関に意見箱を設置し、気軽に意見や要望を伝えられる環境作りを行っている。家族が面会に来た際は利用者の状況を報告し、意見や要望を確認しながら、日々のサービス提供に努めている。また、意見や気づき等が出された場合は職員内で迅速に検討し、共有を図りながら対応するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を出し合えるようにしている。	職員会議は月1回、定期的に開催しているほか、朝の申し送りや日常業務等で、職員の意見を聞くように努めている。職員から出された意見等は運営に反映させ、サービスの質の向上に努め、支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や管理者評価で、職員がやりたい事には理解を示してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に関しては理解があり、予算も確保してもらっている。また、資格を取得する際は助成金もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会の参加により交流を図り、サービスの質を向上させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会を行い、状態を把握して要望を確認させていただいた上で、暫定の計画を作成し、安心して入居していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前は必ず家族と面会し、要望等を確認させていただき、不安なく話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面会、担当ケアマネジャーの情報を基に、必要な支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりのできる事を大切に、「お願いします」「ありがとうございます」を伝える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を報告し、ゆっくりと過ごしていただける場を提供している。また、行事の際は家族にも参加をいただき、共に楽しみ、絆を保てるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な馴染みのの方々が気軽に訪問できるような雰囲気づくりを心がけ、訪問時には飲み物等を提供し、ゆっくりと過ごせる空間を設けている。	友人や知人との関わりは利用者が生活する上での大切な生きがい、喜び、社会資源と捉え、馴染みの関係が途切れないよう、面会は自由に受け入れている。入居時のアセスメントの際は、家族等から馴染みの関係(病院・美容院・嗜好等)や利用者・家族の意向を確認している。また、ホームでは「人生の木」という手法を取り入れ、利用者の意向確認に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きなテーブルを囲み、毎日一緒にラジオ体操や口腔体操、歌を歌う等することで、皆と関わる事を大切に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族が運営推進会議や行事に参加していただき、グリーフケアにもなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の作成、更新時には希望、意向の把握を行っている。把握が困難な場合には表情等から把握に努めている。	その人らしさを大切にし、利用者に寄り添ったケアを行っており、日々の生活から感じられる言動等から、利用者個々の思い等を把握するように努めている。また、新たな情報や気づきは職員間で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはその方の生活歴や暮らし方、生活環境、利用サービスの聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活やセンター方式で、できる事やできない事等の有する力の把握に努め、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議において、入居者一人ひとりの課題、ケアのモニタリングを行い、介護計画に反映、作成している。	定期的に利用者のモニタリングを行い、家族から聞き取り、介護計画に反映させている。ホームでは利用者の生きがいや自立が最大限に図られるよう、個別具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット端末に入力し、職員や医療機関と情報を共有している。また、FAIRでの入力に取り組み、実践、結果、気づき等を共有しながら、介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や訪問歯科、訪問診察、管理栄養士等、多職種と連携を図り、柔軟なサービス支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週ボランティアが来所し、活動へ寄り添い、見守りを行ってくれることで、安全に生活活動に参加でき、会話を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診察だが、入居者と医師との信頼関係ができており、入居者や家族も安心している。	利用者の状況はタブレット端末を使用し、協力医療機関や登録事業所間で共有できる体制を整備している。日々の状況(バイタル、排泄、水分摂取、感情等)を入力して、タブレット端末で情報を共有し、利用者家族に安心を与えている。また、利用者の病状等に変化があった際は、家族に電話等で相談や報告を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護への相談、報告の情報共有の用紙があり、適切な状態把握への支援となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、面会での情報交換、相談により、早期退院へ働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の段階に応じてその都度話し合い、理解、承諾をいただいた上で、チーム関係者が方針を共有し、支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応についてホームの方針を明確にし、同意書に署名、押印をいただいている。また、看取りを実施した際は最後に職員で話し合いを行い、振り返った内容をまとめ、今後のケアに役立てている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の勉強会、消防隊によるAED講習等を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練を実施すると共に、地域と共同で防災訓練へ参加し、協力体制を築いている。	年2回、避難訓練を行っているほか、地域の防災訓練にも参加して、防災意識を高めている。日頃から、全利用者の避難袋や食糧を常備しており、避難袋には利用者の服薬状況や避難時に必要な情報を記載している。また、備蓄品の入替時期は書面で管理しており、定期的に入替を行っているほか、スプリングローヤ消火器等は専門業者から定期点検を受けている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりのそのままを受け入れ、禁止語、訂正語は使用しないケアを行っている。	職員はその人らしさを意識した、寄り添った支援を大切にしており、利用者を否定しない支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	自分の食べたい物をリクエストいただき、希望に沿った献立を作り、喜ばれている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休息を希望される方、読書の好きな方、会話の好きな方等、その方のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみとして日中は好みの洋服を着用すると共に、できる限りその方が動きやすい服装でおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの力を見極め、できる方のできる事をお願いし、一緒に食事の準備や後片付け等をしている。	利用者から好きな物や食べたい物を聞き、匂いを感じられるような食事作りに反映させている。また、食事の際は急かすこと等はせず、利用者のペースで食事できるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や体調に応じて高カロリー食の提供を行い、たんぱく質の粉末を味噌汁に入れ、栄養価を高めている。また、1日の食事量や水分量を管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア援助を介護計画に挙げ、入居者の力量に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食前、食後、また、2時間から3時間を目安にトイレでの排泄支援を行うことで、排泄の失敗と紙オムツの汚染を軽減できている。	利用者個々の排泄パターンや水分摂取量、摂取飲料の種類等はタブレット端末で管理し、情報を共有しながら、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を提供したり、個別に食物繊維を提供している。また、運動を取り入れて便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	曜日は決められているが、ゆっくりと入浴していただけるように工夫している。	利用者の体調も考慮の上、週2回、入浴を行っており、会話をしながら楽しく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く休めるように音楽を流し、体調に応じて、居室やこたつ、ホールソファで休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は申し送りにおいて共有し、服薬後の状態観察も申し送りによって共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの力量に応じた役割で張り合いを感じ、好きな食べ物やレクリエーションにより、笑顔のある日々を過ごせるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族やボランティアに協力をいただき、いちご狩りやサクラんぼ狩り、お花見、回転寿司等、季節毎に出かけている。	利用者から希望を聞き、外出先を決定しているほか、過去の行事記録も参考にしながら職員間で話し合い、行事の選定を行っている。また、家族やボランティアの協力を得ながら、季節に合った行事を実施しており、家族の参加率も非常に高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には買い物の支払いが行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話がかけられるように、手紙は投函まで自分でできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に共用空間の飾り付けを変えている。また、いつも季節の花を飾り、居心地良く過ごせる努力している。	ホールは天井も高く、広く奥行きもあり、明るい雰囲気である。利用者と一緒に制作した作成物は、四季を意識して掲示している。また、温・湿度計、加湿器等を設置して快適な空間づくりを意識しているほか、共有スペースのテレビは音量も適度であり、利用者の希望を確認しながら歌番組を放映する等、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを4ヶ所設置し、コタツやテーブルもあり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋毎に違う暖簾を掛け、入居者が大切にしていた物を持ち込んでいただき、安心して過ごせるように支援している。	各居室入口には異なる暖簾を掛け、利用者が居室を把握しやすい環境となっている。また、居室には馴染みの物を持って来ていただくように働きかけており、家族の写真を飾る等、個々に合わせた居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには朱色の暖簾、各居室の入口にも蛙やふくろう等の暖簾を掛け、分かりやすい工夫をしている。		